

# 杉山ゆきお後援会だより

第24号



杉山議員 福生市議会報告

## 福生市の高齢化率(総人口に65歳以上の占める割合)は、22.95%

福生市の6月議会は、初日の一般質問の最中に「議場会議システム(インターネット中継)」がダウンし、会議の進行ができない状況になりました。議会運営の責任者である杉山議会運営委員長は、急遽、議会運営委員会を招集して対処策を協議し、1日目の会議は延会となり、2日目から一般質問が行われました。杉山議員の一般質問は、「高齢者」というネーミング、子育て世代支援事業の充実、福生市職員のラスパイレス指数、小中学校の土曜授業など、民生・行政改革・学校教育の行政課題について、福生市の現状や取り組みを質しました。

### 『60歳代を高齢者と言わない』宣言について

杉山◇一般的に60歳代が14%を超えると高齢化社会、21%を超えると超高齢化社会と言われている。福生市の高齢化率は平成26年1月1日現在22.6%、高齢者は1万3303人で、超高齢化のまちと言える。高齢者という呼び方は我が国では65歳以上を指すものとされてきたが、現在、平均寿命は80歳代と大きく伸び、健康寿命も男女とも70歳を超え、多くの60歳

代の人が健康を保ちながら、地域や職場で活躍しており、高齢者と呼ぶのは実態とかけ離れていると感じられる昨今である。こうした事情を踏まえて、神奈川県大和市では「60歳代を高齢者と言わない都市」宣言をし、広報や案内に69歳までは高齢者と表記をせず、他の文書でもその都度検討していくとしている。福生市では、健康ふっさ21などの施策で元気な高齢者を支援しているが、健康寿命の延伸は、高齢者自身の

生活の質の向上はもとより、医療費の抑制にもつながると考える。こうした宣言をすることにより、市内外に福生の元気をPRできるのではないかと、市長の所見を伺いたい。併せて直近の60歳代の数値はどうなっているのかも伺いたい。

市長◆福生市の直近の高齢者の現状は、平成26年5月1日現在の60歳から69歳までの人口は、男性4009人、女性3981人、合計では7990人で、総人口に占める割合では13.6%となっている。また、70歳以上の人口は、男性3968人、女性5695人、合計では9663人で、総人口に占める割合では16.5%、そして、65歳以上の人口は1万3479人で、総人口に占める65歳以上の方の割合である高齢化率は、福生市では22.95%である。福生市に限らず、60歳代の方々は本当にお元気で、多くの高齢者が職場や地域で、今まで培われた知識や

### 福生市副市長に 福島秀男氏を選任

8月26日の市議会臨時会において、市長から副市長選任についての議案が提出され、議会の同意を得て、副市長に前企画財政部長の福島秀男氏が選任されました

経験を生かして活躍されている。今後、高齢化社会を迎えても、元気な高齢者の方々にさまざまな場面で活躍していただけるものと確信している。しかしながら、現在の社会保障制度や法律において、60歳代を高齢者と定義してあるものが多数あり、何よりも60歳代の高齢者が元気であることは周知の事実であるので、「60歳代を高齢者と言わない」宣言を行うことは考えていない。

杉山◇木で鼻をくくるような答弁で、取り付く島もない。60歳以上を高齢者と呼ぶべきではないと再検討を始めた動きもある。市長の「そっけない答弁」を聴いたとの意見を述べて次に移る。

# 子育て世代支援の 住宅購入融資補助等について

杉山◇子育て世代支援の住宅購入融資補助等についての考えをお聞きしたい。人口減少問題は、我が市に限らず、全国どこでも起こっている現象であり、

その対策として、質問項目に上げた「住宅購入融資補助」も、多くの自治体で名称は違うが、実施している。市長は「子育てするならふっさ」を打ち出して、それに沿った施策を実行しているが、人口減少がとまらない現状において、担税力のある若い方たちに福生に住んでいただき、将来を担う子供の育成に努力してもらう定住化施策は、我が市の人口減少に歯止めをかける一つの方法だと思っている。最近是我が市の中でも一戸建て住宅の建設が目につくようになってきている。市内ではJRの駅が五つあり、皆歩いて電車に乗れる距離にある。利便性、それにどこよりも幼児から児童・生徒の教育にどこよりも力を入れている

福生市の魅力をいま一つ押し出すために様々な努力をしていただいては承知しているが、さらに目玉の施策が必要ではないかと考える。子育て世代支援の住宅融資補助について市長の考えを聞きたい。

市長◆子育て世代支援の住宅購入融資補助等については、福生市では、他市よりも早く人口減少の傾向が表れたため、他市に先立ち、定住化対策の調査研究や定住人口増加策などに着手してきた。今年度より、定住化に資する施策をさらに効果的に進めるため、定住化対策の施策分野として設定した「五つの施策ジャンル」に取り組んでおり、その中の一つである「住宅施策分野」では、子育て世代の受け皿となる良好な住宅の確保を目指していくこととしている。具体的施策として、平成25年度に改定作業を進めてきた福生市住宅マスタープランの中の基本方針に「子育て世帯の住宅取得に向けた支援」を挙げている。そこでは、福生市は持ち家率が周辺都市に比べて低い状況があり、

長く住み続けることができる良質な持ち家を取得してもらうことが大きな効果を上げることになるとしている。本取り組みは、重要性、緊急性が高い施策と認識しており重点施策として計画期間中の積極的な取り組みや早期実現を推進していくことにしたい。

杉山議員質問の「子育て世代支援の住宅購入融資補助」については、今後、他市の状況や先進事例などを参考に、福生市が導入する際のメリット・デメリットや予算や費用対効果、財源確保など多角的視野を持って調査研究を進めていきたいと考えている。

## 子育て世代支援 多摩各都市の状況は？

杉山◇住宅マスタープランの中に子育て世代の住宅取得に向けて新規住宅の取得補助の検討とあるのを承知している。全国各地で行っている補助の仕方は様々あり、借入金の子補給や取得金補助などである。具体的に他市の状況を伺いたい。多摩26都市や西多摩の市町村の状況はどうなっているか。

都市建設部長◆大阪市では子育て所帯向けに分譲住宅購入時の融資に対する利子補給制度を行っており対象となるのは、新婚世帯、または小学校6年生以下の子供がいる世帯で、金融機関等から融資を受け、分譲住宅を新たに取得した場合、融資に対する利子補給を行うもので、最長60カ月、最大で約50万円を交付しているとのことである。静岡市や岐阜県大垣市、兵庫県尼崎市もほぼ同様な利子補給を行っている。

多摩地区では、立川市、青梅市、調布市、武蔵村山市、稲城市、羽村市で子育て世代に限定していないが、一定の収入以下の所帯に対し利子補給制度を実施している。桧原村、奥多摩町では、若年所帯の定住を支援する補助金を支給している。各地で様々な支援策がなされているが、大別すると、住宅取得借入金に対する利子補給と、一時金を助成する支援策に分かれている。

杉山◇住宅資金の利子補給など多摩地区の他市でも実施されている状況の中で、福生市だけが調査研究をしているうちに立ち遅れてしまいうことにならないよう切望する。

# 福生市職員の給与は 他市に比べて高い？

杉山◇一般質問の3点目、福生市のラスパイレース指数について伺いたい。4月6日付けの読売新聞多摩版に多摩地区のラスパイレース指数について報道があった。ラスパイレース指数は国家公務員と地方公務員の給料を比較する指数だが、福生市は111.3で多摩26都市中、上から3番目に高いと報じている。市民から「福生市職員の給与は高い」との声を聴いた。

一方、福生市の資料によると、102.8で新聞報道の数値と大きな差がある。この数値の違いについて事実関係を知りたい。

市長◇杉山議員ご指摘のとおり、福生市のラスパイレース指数は111.3である。このラスパイレース指数は、国家公務員の給料額を100とした場合の市町村の給料額を計算によって求めた値で、国家公務員の給料額と市町村の公務員の給料額を比較するための指標として使われている。このラスパイレ

ース指数を計算する上では国家公務員は一般行政職の課長職までが対象で部長職以上は除かれているが、市町村の場合は部長職までが対象である。さらに、国家公務員の大卒の年齢構成は、経験年数が25年以上の職員は急激に減少し、35年以上在職する者は2割にも満たない状況であり、ほとんどの職員が定年まで勤務する市町村の職員とは条件が大きく異なっている。これらのことがラスパイレース指数が高い要因の一つである。また、国家公務員の給料は、東日本大震災の復興に際して、平成24年4月から2年間の時限で7.8%の減額を行っており、今回のラスパイレース指数は、その減額後の国家公務員の給料と比較されているので、相対的には高い数値となっている。

## 福生市職員のラスパイレース 指数が特に高い理由。

市長◇福生市が26市の中でラスパイレース指数が特に高くなった理由だが、平成25年4月には、その後の大量退職に備え、昇任人数を増やした結果、主査職への昇任年齢が1歳下がっ

ており、そのことが要因の一つである。福生市では平成20年度から人事考課結果による成績昇給を実施しているが、福生市は他市と比べて早期に実施しているため、そのことも影響していると考えている。また、ラスパイレース指数は給料本体のみの比較で、手当は反映されないため、福生市が平成25年4月に実施した管理職の給与改定で、部長職の扶養手当を廃止し、給料表をプラス改定したことが、ラスパイレース指数を押し上げたものと考えている。

福生市は平成25年度以降、大量退職の時期を迎えており、多くの管理職を含む高年齢の職員が退職する。職員の人件費総額は下がっていく見込みだが、その後任として新たに昇任する職員の年齢は一気に若返ることにあり、今後数年間、若い年齢層が短期で昇任する傾向が継続することになる。その面では、ラスパイレース指数は、まだ上がる可能性が高いという状況でもある。今後とも職員給与の適正化について取り組んでいくので、御理解いただきたい。

杉山◇福生市はまだラスパイレース指数が上がる可能性が高いという説明だが、高年齢の職員が大量退職すると大幅に人件費が下がるので、平均給料額も下がるように思われるが、なぜラスパイレース指数が上がる予測なのか、もう少し詳しい内容の説明をお願いしたい。

総務部長◇議員ご指摘のとおり、高年齢の職員が大量退職し、新規採用職員が増えると、給与総額は減少するが、ラスパイレース指数は、それぞれの階層における平均給料額の比較であり、それぞれの階層の人数の増減で指数が変わるものではない。

市長答弁にもあったが、今後の大量退職に備え、主査職の昇任人数を増やしているため、経験年数の10年以上15年未満等の階層の平均給料額がアップしたことが一つの要因である。

また、福生市の定年退職のピークが平成25年度から3年間続くことになるので、他市に比べて、今後も数年間はラスパイレース指数が上がる可能性が高いということになる。

# 小・中学校の土曜授業について

杉山◇小・中学校の土曜授業について伺いたい。新聞報道では、学校教育施行規則改正で、土曜日の授業が教育委員会の判断で実施可能となったとあり、多摩地区では24市が実施しているとの新聞報道がある。福生市では、土曜日を使って公開授業等を行っていることは承知しているが、実施後は代休を設けている。私は、施行規則改正で代休をとらない土曜授業（いわゆる授業日数の増）ができるようになるのかと思っていた。中学校の給食開始が3年後に予定されており、給食時間の確保で、通常の授業に影響が出たりしたときに、土曜授業を実施することで解決できるかもしれないと思ったわけである。この辺の考え方もあわせて伺いたい。また、既に実施している土曜日の公開授業の実施の状況についてもお願いしたい。

## 福生市小・中学校の土曜授業の状況



土曜授業の一環として取り組まれた二小のセーフティ教室

教育長◆本市においては、小学校

が平均年間3・7日、中学校が3・6日実施し、その内容は、

公開授業、道徳授業地区公開講座やセーフティ教室など、各学校の実態によるものとなっている。

学校週5日制は、いわゆる「ゆとり教育」の実施に伴い、平成14年度から全ての土曜日が休校になった。しかし、土曜日に無為に過ごす児童・生徒がいることの指摘や、確かな学力向上が求められる中、授業時間数の確保のために、土曜日の授業実施が求められるようになってきた。これらを背景に、東京都教育委員会は、平成22年に通達を

だし、学校週5日制の趣旨を踏まえつつ、保護者や地域住民等に開かれた学校づくりを進める観点から、土曜授業については各月2回を上限として実施できるようにした。

その後、議員御指摘のとおり、文科省は平成25年11月に「学校教育法施行規則の一部改正について」通知を発出し、土曜日に授業を行うことについては教育委員会の判断で可能となり、本市においては、土曜授業を既に実施している。また、本市の小・中学校の中には、既に振替休校日を設定しないで、土曜授業を実施している学校がある。

授業時数の確保の問題については、本市は各教室等に冷房が完備されている環境にあるため、夏季休業日を短縮することで5日間の授業を行っている。これらにより、本市では土曜授業を合わせて各学校年間8日程度の授業日を確保している。今後とも土曜日の授業を効果的に活用し、特色ある教育活動を展開できるように各学校を指導していきたい。

# 小・中学校の新教材「私たちの道徳」

杉山◇平成26年度4月より小・中学校の道徳授業で新教材「私たちの道徳」が使われている。ところが、文部科学省のフェイブックに「この新教材を他の教材のように家に持ち帰らせず、学校に置きっ放しにさせている学校がある」との書き込みがあった。福生市のことではないと思うが、改めて福生市の状況はどうかになっているのか、伺いたい。

教育長◆道徳教育の新教材「私たちの道徳」は、先人等の名言や、偉人、著名人の生き方に関する内容が多く取り上げられ、いじめの問題や我が国の伝統文化、情報モラルに関する内容等が記載された優れた教材と認識している。本市においては、5月末に全校長に確認したところ、全児童・生徒一人一人に確実に配布されていた。道徳の教科化が検討されている現在、「私たちの道徳」などの優れた教材を活用し、学校における道徳教育の充実を図っていく。